

平成 26 年 12 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社フルッタフルッタ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 長 澤 誠
社 長 執 行 役 員 C E O
(コード番号：2586)
問 合 せ 先 専 務 執 行 役 員 C F O 山 田 通 徳
(TEL. 03-6272-3190)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 26 年 12 月 17 日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、
なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添
のとおりであります。

【単体】

(単位：百万円、%)

項目	平成 27 年 3 月 期 (予想)			平成 27 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (実績)		平成 26 年 3 月 期 (実績)	
		構成比	前期 増減率		構成比		構成比
売 上 高	3,657	100.0	27.3	1,926	100.0	2,873	100.0
営 業 利 益	307	8.4	24.8	164	8.5	246	8.6
経 常 利 益	293	8.0	22.6	172	9.0	239	8.3
当期(四半期)純利益	171	4.7	11.8	110	5.8	153	5.3
1 株 当 た り 当期(四半期)純利益	182.92 円			121.88 円		329.79 円	
1 株 当 た り 配 当 金	0 円 00 銭			0 円 00 銭		0 円 00 銭	

- (注) 1. 当社は子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。
2. 平成 26 年 3 月 期 (実績) 及び平成 27 年 3 月 期第 2 四 半 期 累 計 期 間 (実績) の 1 株 当 た り 当 期 (四 半 期) 純 利 益 は、自 己 株 式 控 除 後 の 期 中 平 均 発 行 済 株 式 数 に よ り 算 出 し て お り ま す。
3. 当社は、平成 26 年 10 月 3 日付で普通株式 1 株につき 100 株の株式分割を行っております。
上記では、平成 26 年 3 月 期 の 期 首 に 行 わ れ た と 仮 定 し て、1 株 当 た り 当 期 (四 半 期) 純 利 益 を 算 定 し て お り ま す。
4. 平成 27 年 3 月 期 (予想) の 1 株 当 た り 当 期 純 利 益 は、公 募 株 式 数 (100,000 株) を 含 め た 期 中 平 均 発 行 済 (予 定) 株 式 数 に よ り 算 出 し て お り ま す。な お、当 該 株 式 数 に は オ ー バ ー ア ロ ッ ト メ ン ト に よ る 売 出 し に 関 連 す る 第 三 者 割 当 増 資 分 (最 大 33,000 株) は 含 ま れ て お り ま せ ン。

以 上

平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年12月17日

上場会社名 株式会社フルッタフルッタ 上場取引所 東
 コード番号 2586 URL <https://www.frutafruta.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 長澤 誠
 問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員CFO (氏名) 山田 通徳 TEL 03(6272)3190
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	1,926	-	164	-	172	-	110	-
26年3月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	121.88	-
26年3月期第2四半期	-	-

(注) 1. 当社は平成26年3月期においては四半期財務諸表を作成していないため、平成26年3月期第2四半期の数値及び平成27年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率の記載をしております。

2. 当社は、平成26年10月3日付で1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高がありますが、当社株式は平成27年3月期第2四半期においては非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載をしております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	2,346	703	30.0	774.10
26年3月期	1,630	611	37.5	672.13

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 703百万円 26年3月期 611百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	-	-	-	-	-
27年3月期	-	-	-	-	-
28年3月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,657	27.3	307	24.8	293	22.6	171	11.8	182.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	909,400株	26年3月期	909,400株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	-株	26年3月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	909,400株	26年3月期2Q	-株

注1. 当社は平成26年3月期においては、四半期財務諸表を作成していないため、「期中平均株式数」を記載していません。

2. 当社は、平成26年10月3日付で1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数（普通株）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における国内経済は、政府による金融経済政策等の効果により景気回復への動きが見られるものの、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減による落ち込みからの回復の遅れや物価上昇に伴う実質所得の減少、天候不順、自然災害の発生等の影響から個人消費の回復は先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、消費税増税による影響が想定以上に長期化し、円安進行に伴う更なる原材料価格高騰のなか、消費者の節約志向による慎重な購買姿勢が継続し、また、天候不順の影響もあり、厳しい状況が続きました。

このような環境下、当社は、『自然と共に生きる』という企業理念のもと、アサイー関連商品の販売拡大及びアグロフォレストリー・マーケティングの強化に向けて積極的に取り組んでまいりました。当第2四半期累計期間にアサイー新商品開発に取り組み、アサイーボウルアイス(冷凍)、アサイーフリーズドライパウダー(常温)、アサイービネガー(常温)を投入し、販売商品のカテゴリー拡大と関西地区での催事出店の積極的な取り組みなど国内の販路拡大に取り組みました。当社の取り扱う“スーパーフルーツ”の代表格であるアサイーの認知度は、消費者の本物・健康・美容意識の高まりにより、天然由来で栄養素が豊富な果物として、確実に日常生活に定着しつつあると考えられます。

当社は輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。事業部門別の業績は次のとおりであります。

ナショナル・ブランド事業部門(NB事業部門)に関しては、新商品発売を機に新規取引先の拡大と首都圏以外の販路拡大に注力しました。平成26年9月に実施した阪急うめだ店での催事出店など積極的な試飲プロモーションなどを通じ、新規顧客の獲得と導入店舗の拡大を図りましたが、夏場の天候不順等による影響もあり、計画に対して低調に推移しました。その結果、NB事業部門全体の売上高は1,175,211千円となりました。

アグロフォレストリー・マーケティング事業部門(AFM事業部門)に関しては、外食店でのアサイーデザートメニューの新規採用や大手コンビニエンスストアのPBデザートに当社アサイー原料が採用されるなど、アサイー採用企業と取扱商品の拡大に努めました。また、大手菓子メーカーへのアグロフォレストリー産カカオ豆の販売等もあり、その結果、AFM事業部門全体の売上高は561,257千円となりました。

ダイレクト・マーケティング事業部門(DM事業部門)のうち、WEB通販に関しては、アサイードリンクシリーズ等のNB飲料商品や冷凍フルーツパルプを中心に底堅く推移しております。直営店舗に関しては、ブラジルワールドカップサッカー大会開催に関連し、TV、雑誌などメディアによるアサイーや当社アサイーカフェの紹介など情報発信拠点としての機能が発揮できました。その結果、DM事業部門全体の売上高は189,633千円となりました。

営業外損益に関しましては、外貨預金の時価評価等による為替差益18,201千円、デリバティブ取引の時価評価による評価損6,460千円が発生しております。この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は1,926,102千円となり、営業利益は164,607千円、経常利益は172,728千円、四半期純利益は110,839千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産に関する分析

(資産)

当第2四半期累計期間における総資産の残高は、前事業年度末より715,626千円増加して、2,346,341千円となりました。流動資産の残高は、718,508千円増加して、2,253,387千円になりました。この主な要因は、現金及び預金が119,461千円増加、業容拡大により売掛金が7,722千円増加、原材料及び貯蔵品が126,726千円増加、前渡金が490,052千円増加したことによります。固定資産の残高は、2,881千円減少して、92,954千円になりました。この主な要因は、減価償却が進んだことにより有形固定資産が1,407千円減少、無形固定資産が1,856千円減少したことによります。

(負債)

当第2四半期累計期間における負債の残高は、前事業年度末より622,897千円増加して、1,642,372千円となりました。流動負債の残高は、616,447千円増加して、1,422,185千円になりました。この主な要因は、資金調達により短期借入金が570,000千円増加、1年内返済予定長期借入金が124,756千円増加したことによります。固定負債の残高は、6,449千円増加して、220,187千円になりました。この主な要因は、資金調達により長期借入金が13,950千円増加、その他負債が6,460千円増加した一方で、社債の償還により社債が15,000千円減少したことによります。

(純資産)

当第2四半期累計期間における純資産の残高は、前事業年度末より92,729千円増加して、703,968千円になりました。この主な要因は、当期純利益110,839千円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況に関する分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ84,238千円減少し、当第2四半期会計期間末には368,993千円になりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果使用した資金は585,334千円となりました。

これは主に、税引前四半期純利益が172,728千円となった一方、売上債権の増加7,722千円、たな卸資産の増加128,253千円、仕入債務の減少44,324千円、前渡金の増加490,052千円により資金を使用したことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は210,781千円となりました。

これは主に定期預金の預入により203,700千円により資金を使用したことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果調達した資金は693,706千円となりました。

これは主に短期借入金の純増額570,000千円、長期借入金の純増額138,706千円により資金を調達したことによります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社としましては、消費者の本物・健康・美容意識の高まりから当社の高品質商品の理解も広がり、消費者の選択が2極化している状況がうかがえることから、高品質にこだわるとともに季節性商品の開発や飲料メーカー、小売販売業者との提携を強化し、「FRUTA FRUTA」ブランドをアサイーのトップブランドとして更に普及、浸透させることに努めていくことといたします。

これにより、当期（平成27年3月期）の業績予想につきましては、売上高3,657百万円（前年同期比127.3%）、営業利益307百万円（前年同期比124.8%）、経常利益293百万円（前年同期比122.6%）、当期純利益171百万円（前年同期比111.8%）を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	453,232	572,693
売掛金	424,053	431,776
商品及び製品	217,335	218,862
原材料及び貯蔵品	380,616	507,343
前渡金	-	490,052
その他	59,640	32,658
流動資産合計	1,534,878	2,253,387
固定資産		
有形固定資産	45,085	43,677
無形固定資産	9,860	8,003
投資その他の資産	40,890	41,272
固定資産合計	95,835	92,954
資産合計	1,630,714	2,346,341
負債の部		
流動負債		
買掛金	338,854	294,529
短期借入金	200,000	770,000
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	25,364	150,120
未払法人税等	90,546	56,943
役員賞与引当金	6,047	-
賞与引当金	11,304	-
その他	103,622	120,592
流動負債合計	805,737	1,422,185
固定負債		
社債	55,000	40,000
長期借入金	148,310	162,260
資産除去債務	10,427	11,466
その他	-	6,460
固定負債合計	213,737	220,187
負債合計	1,019,475	1,642,372
純資産の部		
株主資本		
資本金	166,000	166,000
資本剰余金	204,485	204,485
利益剰余金	221,689	332,528
株主資本合計	592,174	703,014
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	19,064	954
評価・換算差額等合計	19,064	954
純資産合計	611,239	703,968
負債純資産合計	1,630,714	2,346,341

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	1,926,102
売上原価	1,135,300
売上総利益	790,802
販売費及び一般管理費	626,195
営業利益	164,607
営業外収益	
受取利息	30
為替差益	18,201
その他	1,361
営業外収益合計	19,593
営業外費用	
支払利息	3,974
デリバティブ評価損	6,460
その他	1,037
営業外費用合計	11,472
経常利益	172,728
税引前四半期純利益	172,728
法人税、住民税及び事業税	54,813
法人税等調整額	7,075
法人税等合計	61,889
四半期純利益	110,839

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	172,728
減価償却費	8,712
賞与引当金の増減額(△は減少)	△11,304
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,047
受取利息及び受取配当金	△31
為替差損益(△は益)	△18,171
支払利息	3,974
デリバティブ評価損益(△は益)	6,460
売上債権の増減額(△は増加)	△7,722
たな卸資産の増減額(△は増加)	△128,253
仕入債務の増減額(△は減少)	△44,324
前渡金の増減額(△は増加)	△490,052
未払消費税等の増減額(△は減少)	16,490
その他	3,185
小計	△494,357
利息及び配当金の受取額	31
利息の支払額	△4,167
法人税等の支払額	△86,841
営業活動によるキャッシュ・フロー	△585,334
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△4,691
定期預金等の預入による支出	△203,700
敷金の差入による支出	△2,410
敷金の回収による収入	60
その他	△40
投資活動によるキャッシュ・フロー	△210,781
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	900,000
短期借入金の返済による支出	△330,000
長期借入れによる収入	200,000
長期借入金の返済による支出	△61,294
社債の償還による支出	△15,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	693,706
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,171
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△84,238
現金及び現金同等物の期首残高	453,232
現金及び現金同等物の四半期末残高	368,993

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、輸入食品製造業販売事業の単一セグメントのため、記載は省略しております。